

第4章 図形と計量

18 三角比

1 正弦・余弦・正接

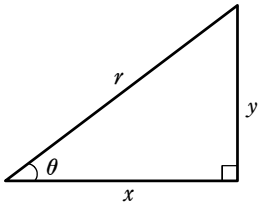
右の図の直角三角形において

1

$$\sin \theta = \frac{y}{r} \text{ (正弦)}, \cos \theta = \frac{x}{r} \text{ (余弦)},$$
$$\tan \theta = \frac{y}{x} \text{ (正接)}$$

2

$$y = r \sin \theta, \quad x = r \cos \theta, \quad y = x \tan \theta$$



19 三角比の相互関係

1 三角比の相互関係 (θは鋭角)

1

$$\tan \theta = \frac{\sin \theta}{\cos \theta}$$

2

$$\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$$

3

$$1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$$

2 90°−θの三角比 (θは鋭角)

$$\sin(90^\circ - \theta) = \cos \theta,$$

$$\cos(90^\circ - \theta) = \sin \theta,$$

$$\tan(90^\circ - \theta) = \frac{1}{\tan \theta}$$

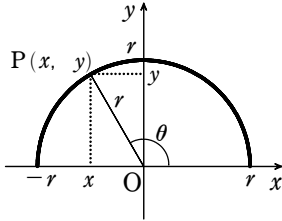
20 三角比の拡張

1 座標を用いた三角比の定義 (0°≤θ≤180°)

右の図で、∠AOP=θ、OP=r、P(x, y)

$$\sin \theta = \frac{y}{r}, \quad \cos \theta = \frac{x}{r}, \quad \tan \theta = \frac{y}{x}$$

注 θ=90°のときはx=0であるから、 $\tan \theta \left( = \frac{y}{x} \right)$ は定義されない。したがって、tan θと書いたときにはθ≠90°であるものとする。



2 三角比の符号とそのとる値の範囲 (0°≤θ≤180°)

θ	0°	鋭角	90°	鈍角	180°	とる値の範囲
sin θ	0	+	1	+	0	0≤sin θ≤1
cos θ	1	+	0	−	−1	−1≤cos θ≤1
tan θ	0	+		−	0	実数全体

3 180°−θの三角比 (0°≤θ≤180°)

$$\sin(180^\circ - \theta) = \sin \theta,$$

$$\cos(180^\circ - \theta) = -\cos \theta,$$

$$\tan(180^\circ - \theta) = -\tan \theta$$

4 三角比の相互関係 (0°≤θ≤180°)

1

$$\tan \theta = \frac{\sin \theta}{\cos \theta}$$

2

$$\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$$

3

$$1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$$

5 直線の傾きと正接

$$\text{直線 } y = mx \text{ と } x \text{ 軸の正の向きとのなす角を } \theta \text{ とすると}$$

$$m = \tan \theta$$

21 正弦定理・余弦定理

1 正弦定理

$$\triangle ABC \text{ の外接円の半径を } R \text{ とすると}$$

$$\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B} = \frac{c}{\sin C} = 2R$$

2 余弦定理

△ABCにおいて、次が成り立つ。

1

$$a^2 = b^2 + c^2 - 2bc \cos A, \quad b^2 = c^2 + a^2 - 2ca \cos B, \quad c^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos C$$

2

$$\cos A = \frac{b^2 + c^2 - a^2}{2bc}, \quad \cos B = \frac{c^2 + a^2 - b^2}{2ca}, \quad \cos C = \frac{a^2 + b^2 - c^2}{2ab}$$

3 三角形の角と辺の関係

△ABCにおいて、次が成り立つ。

$$b^2 + c^2 > a^2 \iff \cos A > 0 \iff A \text{ は鋭角}$$

$$b^2 + c^2 = a^2 \iff \cos A = 0 \iff A \text{ は直角}$$

$$b^2 + c^2 < a^2 \iff \cos A < 0 \iff A \text{ は鈍角}$$

22 正弦定理と余弦定理の応用

1 三角形の辺と角

三角形の6つの要素(3辺, 3つの角)のうち、少なくとも1つの辺を含む3つの要素が与えられたとき、残りの要素を求めることができる。

- 1 3辺(a, b, c)から  
余弦定理で角(A, B, C)    なお  $C = 180^\circ - (A + B)$
- 2 2辺と1つの角(a, b, C)から  
余弦定理で辺(c), さらに角(A, B)
- 3 1辺と2つの角(a, B, C)から  
 $A = 180^\circ - (B + C)$ , 正弦定理で辺(b, c)

2 三角形の辺と角の大小関係

三角形の2辺の大小関係は、その向かい合う角の大小関係と一致する。  
△ABCにおいて、たとえば  $b < c \iff B < C$   
三角形の最大の辺に向かい合う角が、その三角形の最大の角である。

補足 文字を含む分数の計算

正弦定理や余弦定理を利用して解く問題では、文字を含む分数の計算が必要になる場合がある。文字を含む分数の計算は、次のことを利用して行う。

基本性質

$$\frac{A}{B} = \frac{AC}{BC}, \quad \frac{A/D}{B/D} = \frac{A}{B} \quad (\text{ただし, } C \neq 0, D \neq 0)$$

乗法・除法

$$\frac{A}{B} \times \frac{C}{D} = \frac{AC}{BD}, \quad \frac{A}{B} \div \frac{C}{D} = \frac{A}{B} \times \frac{D}{C} = \frac{AD}{BC}$$

加法・減法

$$\frac{A}{C} + \frac{B}{C} = \frac{A+B}{C}, \quad \frac{A}{C} - \frac{B}{C} = \frac{A-B}{C}$$

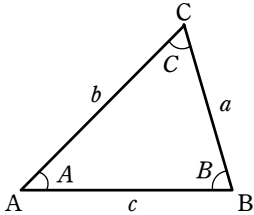
23 三角形の面積

1 三角形の面積

△ABCの面積Sは、次の式で表される。

$$S = \frac{1}{2}bc \sin A, \quad S = \frac{1}{2}ca \sin B,$$

$$S = \frac{1}{2}ab \sin C$$



2 三角形の内接円と面積

$$\triangle ABC \text{ の面積を } S, \text{ 内接円の半径を } r \text{ とすると}$$

$$S = \frac{1}{2}r(a + b + c)$$

発展 ヘロンの公式

1 ヘロンの公式

3辺の長さがa, b, cである△ABCの面積Sは

$$2s = a + b + c \text{ とすると} \quad S = \sqrt{s(s-a)(s-b)(s-c)}$$

24 空間図形への応用

1 空間図形への応用

- 1 線分の長さや角の大きさは、三角形の辺や角ととらえて、三平方の定理や正弦定理、余弦定理を利用する。
- 2 角錐・円錐の体積

底面積S, 高さhの角錐・円錐の体積Vは

$$V = \frac{1}{3}Sh$$